

目標は東京への一極集中を是正すること！！

川崎二郎の政治活動は「東京一極集中是正」に行きつくといっても過言ではない。

東京一極集中とは、文字通り人口が東京に集中し我々の住む三重県をはじめ地方の過疎化が進んでしまうことである。

なぜ、東京一極集中を是正しなければならないのか。

- ・若者が東京に行ったまま地方に戻ってこない。
- ・賃貸マンション等の賃料が高かつ手狭ゆえ、第2子・3子をもつことができず少子化に繋がってしまう。
 例：賃料10万円 鈴鹿市白子町 物件A 4LDK 84.24m²
 東京都江東区 物件B 1K 25.74m²
- ・国の重要機能や大企業が東京に集中してしまっているため、巨大な災害やテロ等万が一の事態が発生した場合、日本全体の機能が停止してしまう。

5Gによる地方活性化

皆様が使われているケータイは第4世代(4G)で、間もなく第5世代(5G)がリリースされる。

端的に言えば『ものすごく速い通信速度』が実現する。これを用いて地域課題解決のための農業・医療・教育・防災など多様な分野での5G実証、5G活用による遠隔・自動サービス等の導入を行うことで、人材不足を補うとともに、地域課題解決や住民サービスの向上が図れる。

ICT利活用により誰もが豊かな人生を享受できる共生社会の実現に向けて、川崎二郎は『情報通信戦略調査会顧問』として活動している。



5G導入による遠隔医療行為や重機の遠隔操縦を体験

中部国際空港の滑走路複線化

来日観光客が増加している現在、国内の国際主要空港は複数滑走路がある。(福岡空港は2020年、那覇は2024年に複数滑走路予定)

一方で中部国際空港は滑走路が1本しかない状況でたくさんの観光客を受け入れる体制が作れておらず、また1本しかないためメンテナンスを行うことで、飛行機の離着陸を止めなければならない状況である。

川崎二郎は『中部国際空港拡充議員連盟会長』として、早期複線化を図るべく活動している。



「与党中部国際空港拡充議員連盟総会」に会長として参加

地方は人口減少が加速し、税収が減少してしまう。これによって上下水道をはじめとするライフラインの保全が困難になり、地元中小企業は衰退の一途をたどることとなり、地方はまさに「田舎」になり果ててしまう。

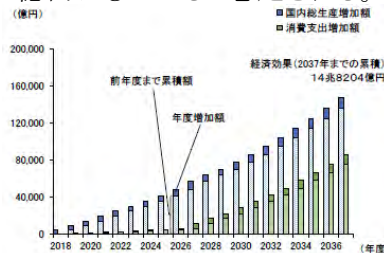
この状況を打開するために、川崎二郎は**中部圏**の活性化に全力を注いでいる。

中部圏活性化のための取り組み

リニア中央新幹線の早期開通

リニア中央新幹線の開通により品川～名古屋間は40分、東京～大阪間は67分で運行予定であり、利便性向上につながる。

また、リニア中央新幹線の実現は、大きな経済効果をもたらし、2037年までで14兆8,204億円にものぼると想定される。



「大阪—名古屋—東京間リニア中央新幹線早期実現を目指す議員連盟会長」としてご挨拶

三重県内各種インフラ整備

安心・安全で住みやすい三重県にするため、鈴木英敬知事をはじめ各地方自治体と連携し、各種インフラ整備を実施

- ◆北勢バイパス早期開通(現在進捗:約65%)
- ◆中勢バイパス早期開通(現在進捗:約90%)
- ◆鈴鹿四日市道路による上記2バイパスの連結(次年度事業化に向けて取組み中)
- ◆鈴鹿川整備(防災・減災に向けて)
- ◆四日市港再編・コンテナ貨物の高度化/効率化
 - ・本田技研工業完成自動車の集約/効率化
 - ・中部電力バイオマス発電等エネルギー関連貨物の取扱機能強化
 - ・大型クルーズ船受入れ

- ◆名張川河川敷の有効活用「名張かわまちづくり」
- ◆伊賀市川上ダム新規建設(前深瀬川・木津川・淀川の洪水防御や安定した水道用水の供給等のため)

○鈴鹿市海岸整備事業(防災・減災に向けて)
 ※本海岸は県および市管轄であるが、改修費用が莫大になることから、国との連携が不可欠である。

ソフト面における課題

- ◆保育園における外国人増に対する対応策の検討
- ◆豚コレラ発生に伴う養豚業界対策と野生イノシシ対策

本紙に掲載した事項は与党国会議員が実施する“国事業”ですが、野党議員や地方議員があたかも「自身の取り組み」のように語られている様子やSNSをよく拝見します。皆様に正しい情報をお届けすべく、継続的に本紙を発行いたしますので、ご一読ください。